

ハッピー通信



2025年1月1日発行
25-01号

現場から（最近のニュースから）

答えのない問題



新しい年が始まりました。お正月に読書をした方もおられるでしょう。そのような人々に本を紹介している記事がありました。「頭のいい人だけが解ける論理的思考問題」2024年ベストセラーランキングビジネス書部門で4位（トーハン調べ）になった本です。その本の「おわりに」より一部を抜粋・編集し、「世界一の難問（？）」が紹介してありました。

2018年の中国の順慶区の学校でおこなわれた小学5年生の算数のテストで出題された問題だということです。

「ある船に、ヒツジ26頭、ヤギ10頭が乗っています。この船の船長の年齢は？」

これは、問題文が間違っているのではありません。この問題を解こうとした生徒の回答がいくつか出ていました。「船長は大人でなければならないので、少なくとも18歳である」また、この問題を知った別の人人が答えたのは羊の重量を推測して、「その重量を運ぶことができる船を運転するには、中国では5年間ボート免許を保持しなければならず、ボート免許は23歳でなければ取れない。ゆえに船長は少なくとも28歳である」ということでした。しかし、正確な年齢は出ません。

では、正解はなにかというと「わからない」です。「正解を導くのに十分な情報がない」が、論理的に正しい解答だということです。実は、まったく同じ問題が1979年にフランスの研究者によって、当時の小学生1、2年生に出題されていたそうです。そして、なんと75%以上の生徒が「 $26 + 10 = 36$ 歳」と答えたそうです。数字を使って、「それらしい正解」を作り上げて答えるという行動をとったのでした。

算数の問題だから、必ず答えがあるはずだと考えるのは正しい理屈ですが、この世のすべての問題において、かならずしも答えが用意されているとは限らないことを知るべきたと、このような解けない問題が出題されたのだそうです。学校を卒業して、社会に出て行くと、だれもが多くの問題にぶつかります。そのとき、「この問題にはきっと解決法がある」「それを探さねばならない」「見つけられなかつたら、自分が悪いのだ」と考えてしまうだろうということです。もちろん、あきらめないで取り組む力は大切ですが、やってはならないことがあると言われています。それは「無理やり答えを出す」ことです。「わからない」という答えを出す勇気を持とうということを記事では紹介してありました。（12月29日DIAMONDonline<「ある船にヒツジ26頭、ヤギ10頭が乗っています。この船の船長の年齢は？」全世界が騒然となった超難問の、衝撃的な「答え」とは？>より）

「自分の問題は自分が解決できるのだ。それを見つけるべきだという」自分がなんとかしたら正解が出て来るのだという枠から出てみませんか。すべての人は、限界があり、知っていることより知らないことの方が多く、できることよりできないことのほうが多いのが事実です。そのような人間に頼り、助け合ったとしても、不可能のほうが多いのです。「ほんとうはわからない」「ほんとうはできない」という事実を認めてこそ、まことの答えに向かうことができます。新しい年に「ほんとうはわからない」と認めて、まことの答えに向かっていっしょに歩み始めませんか。まことの答えは別のところにあるのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれています。隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち碎いて勝利なさいました(ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」